

令和6年度 円山動物園動物福祉自己評価 指摘事項一覧（哺乳類53種）

(1) 一時評価で改善が必要(×)と評価された項目

項目	動物種	備考(評価コメント、ほか「△」評価の動物種)	改善に向けた今後の対応
1-3	動物の身体の状態は全般に良好か? 栄養上の問題で痩せすぎ又は太りすぎの動物はいなかったか?	キリン ♀は3月現在採食量が著しく低下しており、痩せている。血液検査の結果低リン(栄養不足)	良好な身体の状態を季節を問わず維持できるよう、嗜好性の変化を見ながら飼料の創意工夫に努める。
2-1	種による生活様式に応じて、その特性に合った飼い方をしていたか?	クロオオアブラコウモリ 飛翔できない	飼育施設の改修や展示方法の変更など、改善策を検討していく。
2-2	飼育施設には、動物の日常的な動作を制限することのない適切な広さと空間があるか?	クロオオアブラコウモリ 飛翔できる空間がない ※ほか「△」3種 エゾヒグマ: 寝室は不十分 キリン: 屋内が狭く運動量が不足している。しばしば常同行動が見られる。 グラントシマウマ: 走り回れるほどの広さはない	飼育施設の改修や展示方法の変更など、改善策を検討していく。
2-14	水棲動物の飼育施設において、水質に関するしかるべき指標が測定され、適切に維持管理されていたか?	コツメカワウソ 測定なし ※ほか「△」2種 ゴマファザラシ、ゼニガタアザラシ: ろ過装置の維持管理に問題がある。ろ過砂の入れ替えを検討	水質の指標となる項目の測定を実施するとともに、循環ろ過装置の適切な維持管理に努める。
4-1	実施した環境エンリッチメントについての記録およびその評価・見直しを行っているか	クロオオアブラコウモリ 実施していない ※ほか「△」2種 スダスローロリス、ニホンザル: 実施しているが記録をしていない	飼育展示業務マニュアルに基づき、環境エンリッチメントの記録・評価・見直しに努める。
5-3	過剰なグルーミング、忌避、常同行動、過剰な攻撃性、無関心などの否定的な行動が観察されていなかったか?	エゾタヌキ クロザル コツメカワウソ シセンレッサーパンダ フサオマキザル 過剰なグルーミングを認める(エゾタヌキ) やや過剰なグルーミングが見られる(クロザル) 過剰グルーミング、前肢の噛み癖、常同行動が見られる(コツメカワウソ) 換毛時期以外での過剰グルーミングが見られる(シセンレッサーパンダ) 異常行動の結果と推測される脱毛症状を一時認める(フサオマキザル) ※ほか「△」2種 シンリンオオカミ: 傷害に発展する過剰な関係性になっていたため○から△に変更 ダイアナモンキー: 1頭で脱毛を伴う異常行動あり。	飼育施設の改修、環境エンリッチメントの取り組み、展示方法の変更など、否定的な行動への改善策を引き続き模索する。

(2) 改善の余地はあるが、重篤な問題ではない(△)と評価されたものが多い項目(1割=5種以上)

項目	動物種	備考(評価コメント)	改善に向けた今後の対応
1-7	調理場の流しは、毎日水で洗い流して、週1回程度は消毒していたか?	アカハナグマ エゾタヌキ エゾガリネズミ エゾモモンガ エゾユキウサギ エゾリス オオアシトガリネズミ キリン ゴマファザラシ サーバルキャット ゼニガタアザラシ ダイアナモンキー トウキョウトガリネズミ ドグエラヒヒ ニホンザル ヒツジ ヒメトガリネズミ フサオマキザル ブラッザウゲノン ホッキョクグマ マンドリル モルモット ワオキツネザル 消毒していない	飼育展示業務マニュアルに基づき、消毒の実施に努める。
2-5	飼育施設の適正な環境を担保するために必要な機器が適正に維持管理されていたか?	アカハナグマ ゴマファザラシ ゼニガタアザラシ ニホンザル アカハナグマ: ボイラー不調 ゴマファザラシ、ゼニガタアザラシ: 機械故障が発生、水質維持が困難 ニホンザル: 汚水ポンプが冬季に使用不可(令和7年春に対応予定)	機器の定期的な点検整備により飼育環境の維持、向上に努める。
3-13	衛生動物に関して、施設外からの侵入あるいは、発生防除策をとっていたか?	アジアゾウ グラントシマウマ コツメカワウソ サーバルキャット シセンレッサーパンダ ニホンザル ヒマラヤグマ アジアゾウ: ネズミの発生、蚊の大量発生 グラントシマウマ、コツメカワウソ、サーバルキャット、シセンレッサーパンダ、ヒマラヤグマ: 対策していない ニホンザル: ゴキブリ、ネズミの侵入あり	衛生動物の侵入防止、発生防除対策に努める。
4-2	野生下で群れや社会的グループで生活する種は、特別な理由がある場合を除き複数頭で飼育していたか?	シンリンオオカミ シンリンオオカミ: 傷害が起きたことにより別飼いとなったため○から△に変更	飼育施設の改修、展示方法の変更など、改善策を検討していく。
5-1	屋内展示場、寝室や予備獣舎などいずれでも昼夜を問わず動物が正常な行動パターンおよび様々な動作を発現できていたか?	アジアゾウ コツメカワウソ シンオザル シセンレッサーパンダ フサオマキザル アジアゾウ: シュエは冬季間常同行動が出ている コツメカワウソ: 過剰グルーミング、前肢の噛み癖、常同行動が見られる シンオザル: 寝室にいる時間が長くなると常同行動や毛引きが見られる。 シセンレッサーパンダ: 個体によっては常同行動が見られる フサオマキザル: 異常行動が不定期に見られる。特に冬季に多い傾向あり	飼育施設の改修や展示方法の変更など、改善策を検討していく。

令和6年度 円山動物園動物福祉自己評価 指摘事項一覧（鳥類33種）

(1) 改善が必要（×）と判断された項目

項目	動物種	備考(評価コメント、ほか「△」評価の動物種)	改善に向けた今後の対応
1-2 給餌量は適切であり、消費量も記録され、それらを飼育員等が適切に把握・管理していたか？	フンボルトペンギン	餌の切り替えに失敗し、各個体の消費量の把握・管理にも不備あり、削瘦が見られた ※ほか「△」5種 オニオオハシ:クジャクと同室になっており、クジャクがオニオオハシのエサをついばむ様子もあったので、オニオオハシの消費量を把握することが難しかった。残餌は計測出来ておらず、餌の種類によって記録していた。 カンムリシロムク、サトウチョウ、セイキムドリ、ノドグロコウカンチョウ:ホールで他の鳥と混合飼育になっており、ホール用のエサをついばむ様子もあったので、消費量を把握することが難しかった。残餌は計測出来ておらず、餌の種類によって記録していた。	特に複数頭飼育、混合飼育の場合は各個体の状態を良く観察し、各個体にとって栄養上適正な採食量が確保できるよう努める。
1-3 動物の身体の状態は全般に良好か？栄養上の問題で痩せすぎ又は太りすぎの動物はいなかったか？	フンボルトペンギン	餌の切り替えに失敗し、削瘦が見られた	特に複数頭飼育、混合飼育の場合は各個体の状態を良く観察し、各個体にとって栄養上適正な採食量が確保できるよう努める。
3-13 衛生動物に関して、獣舎外からの侵入対策や獣舎内での発生防除対策をとっていたか？	アヒル	屋外で放飼、または夏場の窓開放を実施していた際にフユの侵入が起きてロイコチトゾーン症を発生し2羽死亡した。 網戸など対応が必要 ※ほか「△」24種:侵入可能。発見次第駆除していたが防除する事は出来なかった。 アメリカワシミズク インドクジャク エゾフクロウ オオジシギ オオタカ オオワシ オジロワシ オニオオハシ カンムリシロムク サトウチョウ シナガチョウ シマフクロウ シロフクロウ ショウジョウトキ セイキムドリ ダチョウ チリーフラミンゴ ツミ トビ ノドグロコウカンチョウ ハイタカ ベニイロフラミンゴ モモイロペリカン ユーラシアワシミズク	衛生動物の侵入防止、発生防除対策に努める。特に衛生動物が媒介する伝染性疾病が発生した獣舎では、網戸の設置などの対策を継続して行う。
4-4 混合展示では、群れまたは異なる種間の対立が持続するリスクを回避する(外傷、栄養関係、感染症、逃げ場があるなど)措置がとられていたか	インドクジャク	同室で飼育しているオニオオハシがキジベレを食べる様子があったので、同居してからはクジャク用の餌(キジベレ)を給餌できていなかった。 ※ほか「△」1種 オニオオハシ:インドクジャクが度々接近することもあったが、オニオオハシ用に高い場所に止まり木を設置する等、逃げ場所を作り対処した	複数頭飼育、混合飼育の場合は各個体の状態をよく確認し、適正な採食量や逃げ場所の確保に努める。

(2) 改善の余地はあるが、重篤な問題ではない（△）と評価されたものが多い項目（1割=3種以上）

項目	動物種	備考(評価コメント)	改善に向けた今後の対応
1-7 調理場の流しは、毎日洗い流して、週1回程度は消毒しているか？	アヒル アメリカワシミズク インドクジャク エゾフクロウ オオジシギ オオタカ オオワシ オジロワシ オニオオハシ カンムリシロムク サトウチョウ シナガチョウ シマフクロウ ショウジョウトキ シロフクロウ セイキムドリ ダチョウ チリーフラミンゴ ツミ トビ ノドグロコウカンチョウ ハイタカ ベニイロフラミンゴ ユーラシアワシミズク	消毒はしていない	飼育展示業務マニュアルに基づき、消毒の実施に努める。
2-2 飼育施設には、動物の日常的な動作を制限することのない適切な広さと空間があるか？	アオサギ ゴイサギ シュバシコウ ダチョウ タンチョウ	鳥インフルエンザ対策のための屋内収容時は、放飼場の十分な広さを確保できない。	飼育施設の改修や展示方法の変更など、改善策を検討していく。
2-5 飼育施設の適正な環境を担保するために必要な機器が適正に維持管理されていたか？	インドクジャク オオジシギ オニオオハシ カンムリシロムク サトウチョウ セイキムドリ チリーフラミンゴ ノドグロコウカンチョウ ベニイロフラミンゴ アオサギ アカツクシガモ ゴイサギ シュバシコウ ショウジョウトキ タンチョウ フンボルトペンギン	熱帯鳥類館ボイラー不調 総合水鳥舎暖房機器不調	機器の定期的な点検整備により飼育環境の維持、向上に努める。

令和6年度 円山動物園動物福祉自己評価 指摘事項一覧（爬虫類41種・両生類17種）

(1) 改善が必要（×）と評価された項目： なし

(2) 改善の余地はあるが、重篤な問題ではない（△）と評価されたものが多い項目（1割＝5種以上）

項目	動物種	備考(評価コメント)	改善に向けた今後の対応
1-2 給餌量は適切であり、消費量も記録され、それらを飼育員等が適切に把握・管理していたか？	アイゾメヤドクガエル マダラヤドクガエル ウシガエル ツチガエル トウキョウダルマガエル トノサマガエル ミシシippアカミミガメ	アイゾメヤドクガエル、マダラヤドクガエル：コオロギが小さく、重さ、数などで給餌量の指定が困難なため ウシガエル、ツチガエル、トウキョウダルマガエル、トノサマガエル、ミシシippアカミミガメ：給餌量の記録はあったが、消費量の記録がなかった	飼育日誌への記載方法を検討し、記録に努める。
4-1 飼育展示業務マニュアルに基づき、実施した環境エンリッチメントについての記録およびその評価・見直しを行っているか？	ウシガエル ツチガエル トウキョウダルマガエル トノサマガエル ミシシippアカミミガメ	飼育日誌に記載なし	飼育展示業務マニュアルに基づき、環境エンリッチメントの記録・評価・見直しに努める。

令和6年度 円山動物園動物福祉自己評価 指摘事項一覧（魚類2種・昆虫類2種・甲殻類2種）

(1) 改善が必要（×）と評価された項目

項目	動物種	備考（評価コメント、ほか「△」評価の動物種）	改善に向けた今後の対応
2-13 飼育施設の排水設備は、安全で適切か？	トランスルーセントグラスキャット クラウンローチ	排水口に吸い込まれた可能性が高い	排水口の安全性について、獣舎の再点検および必要な対策を行う。
2-14 水棲動物の飼育施設において、水質に関するしかるべき指標が測定され、適切に維持管理されていたか？	トランスルーセントグラスキャット クラウンローチ	指標の測定なし	水質の指標となる項目の測定を実施するとともに、循環ろ過装置の適切な維持管理に努める。
3-4 動物が死亡した場合に剖検を行っていたか？	アメリカザリガニ ニホンザリガニ	解剖はしていない。外見で異常の有無を判断	甲殻類であっても死亡した際には解剖の実施に努める。
3-14 飼育員により飼育個体の行動、健康状態の観察と記録は行われていたか？	トランスルーセントグラスキャット クラウンローチ	いつ個体がいなくなったか把握できていない ※ほか「△」2種 ハナカマキリ、モーレンカンポオカブト：記録はしていなかった	飼育展示業務マニュアルに基づき、観察と記録に努める。

(2) 改善の余地はあるが、重篤な問題ではない（△）と評価された項目

項目	対象動物種（種名又は種数）	備考（主な評価コメント）	改善に向けた今後の対応
1-2 給餌量は適切であり、消費量も記録され、それらを飼育員等が適切に把握・管理していたか？	トランスルーセントグラスキャット クラウンローチ	記録はしていない	飼育展示業務マニュアルに基づき、記録に努める。
2-8 飼育施設は、年間を通じて定期的に清潔でよく維持管理されていたか？（またその記録が保管されていること）	トランスルーセントグラスキャット クラウンローチ	記録なし（R6は飼育日誌なし）	飼育展示業務マニュアルに基づき、記録に努める。

令和6年度 円山動物園動物福祉自己評価 指摘事項一覧（組織）

(1) 改善が必要（×）と評価された項目： なし

(2) 改善の余地はあるが、重篤な問題ではない（△）と評価された項目

項目	備考(主な評価コメント)	改善に向けた今後の対応
2-2 災害発生時の動物の避難方法の確立、餌の備蓄等の対策はされているか？	災害時対応マニュアルで動物の避難方法までは定めていない	災害発生等の非常時はJAZA加盟園館で相互援助体制が取られるが、自園の体制強化に努める。
3-2 動物飼育施設の規模に応じた獣医師数が確保されているか？	人員の増員配置を要望している	R7年度は獣医師の会計年度職員を任用している。
3-11 衛生動物に関して、施設外からの侵入あるいは、発生防除策を取っているか？	敷地外周に侵入防止柵を整備しているが完全に侵入を防ぎきれしていない	引き続きキツネ、アライグマの侵入対策を行うとともに、柵と樹木の近接箇所は伐採や剪定を実施する。